

## 近現代史(42) 1920年代の諸地域の展開(東欧・バルカン、イタリア、ソ連、アメリカ)

○今回のポイント

東欧・バルカン地域では強権的に国民統合が図られ、イタリアではファシスト政権が誕生した。  
ソ連はスターリンが台頭し五カ年計画を実施。アメリカは黄金の20年代を教授した。

### 【東欧・バルカン諸国の動揺とイタリアのファシズム】

#### (1)東欧・バルカン地域情勢

##### a)大戦後

○チェコスロヴァキア・ポーランド・ルーマニアは[1. フランス]と連携してヴェルサイユ体制を守ろうとする。

##### b)1920年以後

○1920年代；農業不況→チェコスロヴァキア以外の農業国に打撃＋少数民族問題による国内統合の欠如

↓

○過激な民族主義や強権政治で国民統合を図る。

・ポーランド

・[2. ポーランド＝ソヴィエト戦争]…1920年、ウクライナに侵入してソヴィエト政府と戦争を起こして領土を拡大したが、国内の議会政治は早くから混乱。

・1926年、独立運動の指導者[3. ピウスツキ]がクーデタで実権を握る。

・ハンガリー

・1919年、ロシア革命にならった社会主義革命に成功。だが[4. クン＝ベラ]革命政権は早期に倒され、[5. ホルティ]による権威主義体制に移行。

→[6. 権威主義体制]とは！？：教会・王家・地主層など伝統的権威に対する国民の敬意や服従心を利用して樹立される強権的支配体制をさす。

・バルカン地域

・セルビアなどの南スラヴ系民族が[7. セルブ＝クロアト＝スロヴェーン王国]にまとまる。

・29年；セルビア人とクロアチア人の対立を抑えるため国名を[8. ユーゴスラヴィア](南スラヴ族の国)に改称

#### (2)イタリア①左右の動揺

##### a)強まる不満

- ・戦勝国にも関わらず領土拡大を実現できず、強い不満。
- ・戦後のインフレで国民生活が破壊され、政府不信が強まる。

##### b)左派に対する反感

- ・1920年[9. 社会党左派](のちのイタリア共産党)の指導で、労働者・貧農が工場と土地を占拠。  
→ 市民層および地主・資本家・軍部などの社会的保守派層が左派に対して反感。

#### (3)イタリア②ファシスト党政権

a)1919年：[10. ファシスト]党の結成（[11. ムッソリーニ]の指導）

・[12. 全体主義]…危機の原因を左翼および議会制民主主義にあるとし、左派を武力攻撃し、強権的な指導者・国家が国民生活を統制して国民統合をはかる。

b)1922年：[13. ローマ進軍]…政府に圧力をかけて、国王の指示でムッソリーニを首相に任命。

c)1924年：ユーゴスラヴィアを威圧して未回収のイタリアの一部[14. フィウメ]市を獲得

d)1926年：[15. アルバニア]保護国化(ユーゴスラヴィアによる併合を恐れていた)

e)1929年：[16. ラテラン条約]…教皇庁と和解。[17. ヴァチカン市国]の独立を認める。

#### (4)イタリア③ファシズムとは何か？

- ・[18. ファシズム]…大衆動員を積極的に利用し、社会事業や国内開発も推進するが、市民的自由や人権を無視する国家主義をかかげ反対派を弾圧する新しい政治体制や思想。

※参考『詳説世界史研究』(2008、471頁)

○ファシズムは国民を一元的に国家のもとに統合し、国民生活を統制することにより、国家の危機を克服することを唱える([19. 全体主義)。

○[20. 議会主義]や[21. 共産主義]を国内の対立や分裂を促す原因と決めつけ、反対や異論を唱えるものを暴力的に抑圧する。

○国民を絶えず政治的に動員するものの、[22. 国民生活や労働者の期待にも一定の配慮を示す]点で、権威主義や保守的独裁体制と異なる。

#### 【ソ連の社会主義建設】

##### (1)スターリンと第一次五カ年計画

①1924年：[23. レーニン]死後の後継者争い

トロツキーの[24. 世界革命論]

ロシアは後進国であるため、孤立しては存続できないので、全世界的に革命を続行して社会主義勢力を拡大することによってのみ、ソ連の存続をはかることができるという理論

V S

スターリンの[25. 一国社会主義論]

ロシアは後進国だが、広大な領土を持っているので、一国だけでも社会主義を存続し続けることができるという理論。

②1928～1932年：[26. 第1次五カ年計画]

- ・[27. ネップ]に代わって工業化の推進による社会主義建設を支持

- ・農業の集団化と機械化

・集団農場[28. コルホーズ]：土地・農具・家畜を共有する農民の共同農業経営組織

・国营農場[29. ソフホーズ]：農業経営のモデルとなる国营の大規模農場

→集団化に抵抗する多数の農民を逮捕、投獄し、生産物の強制供出を実行。1932～33年には農民に多くの餓死者が出たが、集団化はほぼ完了した。

(2)[30. コミンテルン]の性格の変化

- ・[31. 一国社会主義論]が優勢 → スターリンとソ連共産党の意向を重視するようになる。

#### 【アメリカ合衆国の繁栄】

##### (1)世界の富が合衆国に集中する構造

①大戦中、物資と借款を提供して債務国の地位を脱して[32. 債権国]となる。

②ワシントン体制、不戦条約、ドーズ案、ヤング案を提唱して国際協調に貢献。

③英仏の[33. 戦債免除要請]を拒否し国内市場を[34. 高関税]で守る → 富の集中

(2)1920年代のアメリカ「永遠の繁栄」 3代12年[35. 共和党]政権…ハーディング → クーリッジ → フーヴァー

①1920年：[36. 男女平等選挙権] → 民主主義の基礎

②[37. フォード]による自動車の大量生産などで好景気。現代大衆文化が成立。

③反共的風潮：[38. サッコ・ヴァンゼッティ事件](でっちあげでイタリア系移民が処刑される)

④排外主義：[39. KKK](クー・クラックス・クラン)、[40. 移民法](新移民制限・アジア移民全面禁止)

⑤保守化：[41. 禁酒法]制定 → ギャングの[42. アル=カポネ]が暴利をむさぼる。